



市民の声ねりま
練馬区議会議員

岩瀬たけし

【プロフィール】
1977年生まれ。早稲田大学法学部卒業
早大大学院経営学修士号(MBA)取得。
三井化学勤務後、国際協力機構
(JICA)等の専門家として、全世界20カ
国以上での地域開発事業に従事。妻、
一歳の息子、養母と大泉学園町在住。
市民の声ねりま副代表(大泉地域北部担当)
第18期 練馬区議会議員に2968票で当選

市民の声
ねりま

- ・ 9月議会…一般質問報告
- ・ 対談企画…渡辺大地さん
- ・ 子育てイベントのお知らせ
- ・ 練馬区政、ここが変わった!

発行責任者：岩瀬剛史
編集：矢野和葉

いわせて かわら版

2015年 第2号 特大号

議会一般質問

9月9日、一般質問の傍聴に来てくださった皆さま、ありがとうございました！台風のなか40名を超える方々が足を運んでくださり、大変勇気づけられました。

一般質問とは、議員が行政(区長)に対して、どのような分野のことも問うことができる機会。練馬区ではすべての議員が1年に1度行います。持ち時間は質問が25分、回答が20分の計45分。限られた時間の中で、どれだけ自分の思いを伝えられるか、どのような答弁を引き出すことができるかがポイントになります。地域の中で、理不尽な状況に苦しむ方々、特に声をあげることのできない方々に寄り添いつつ、その声をしっかりと政策に反映させたいという思いが私の原動力となってきました。人権はマイノリティを守るためにこそあります。マイノリティが住みやすい社会はだれにとっても住みやすい社会。初めての一般質問のテーマには私が区議を志した原点、マイノリティの人権問題を中心に以下の項目を取り上げることになりました。

- 1 性的マイノリティの方の権利保障
- 2 外国籍住民の人権の保障
- 3 父親の子育てと男女共同参画
- 4 大泉の課題(関越高架下)

一般質問の各項目につきましては岩瀬たけしのウェブサイト
で詳細を報告させていただいておりますので、ご覧いただけ
ば幸いです。(http://iwasetakeshi.net)

1 性的マイノリティ(LGBT)の権利保障について

練馬区で性的マイノリティについて、議会の場でしっかりと
取り上げたのは今回が初めて。他の自治体では性的マイノリ
ティの権利保障を区の計画や要綱の中で示している一方で練
馬区では、区として人権擁護、差別撤廃に向き合う基本的な
方針を全く示していません。区の職員や教員に対する正しい
知識を得るための研修、区民への啓発活動も不十分でした。
今回は、初めて取り上げるテーマでもあるため、性的マイノリ
ティの差別に対する区の基本的な認識を問うと共に、基本方
針の策定、そして現在差別で苦しんでいる方への相談窓口の
設置等を求めました。

区からの回答

練馬区が性的マイノリティの人権問題を重く受け止めてい
ることを示すとともに、人権保障を今後の計画に含めること
を検討すると示した点で、意義があったと思います。今まで、
性的マイノリティへの支援は区の行政ではほぼ存在しなかつ
たのに等しい現状から見ると、大きな一歩だと思えます。
また、相談窓口や研修についても前向きな回答でした。

LGBTとは、女性同性愛者、男性同性愛者、両性愛者、性同一性障害をふくむ性別
越境者の頭文字をとって生まれた性的少数者を指す言葉。他にも多様なセクシュア
リティがあります。性的指向や性自認は、個人の尊厳・アイデンティティの一部です。

2 外国籍住民との共生について

東京オリンピック控え、観光客の受入れを訴える議員はいますが、既に地域で暮らしている外国籍住民との共生について、議会でもとりあげられることはほとんどありません。区内の外国籍住民は2001年から1.3倍に増加し、区民全体に占める割合も人口の約2%、国籍も100ヶ国を超えています。しかし区の施設内で外国人に対する差別的な落書きがみつかつてはいるほか、ネット上でも区民による外国人の排斥を訴える表現が見られます。行政サービスにおいても区内の外国籍の方の権利が十分に守られてはいえませんが、こういった状況を踏まえ、地域に住む外国人の権利保障の観点から、練馬区のヘイトスピーチに対する取組み、外国人との共生政策、そして、災害時の多言語での対応について質問しました。

区からの回答

ヘイトスピーチにしっかり向き合う姿勢を明らかにすると共に、これまで止まっていた多文化共生政策を進める、外国人の防災についてもボランティアセンターのマニュアルで整備するという回答を引き出すことができました。

3 父親の育児参画、男女共同参画について

父親の主體的な子育ての促進は、固定的ジェンダー意識の改善や、男女共同参画社会およびワークライフバランスの実現に向けた重要な一歩です。また、差別的な習慣や制度を見直し、平等意識の啓発をするにも家庭や地域生活に使える時間を増やす後押しをする必要があります。そのため、練馬区の男女共同参画計画の「家庭・地域での男女平等意識の推進」を図る指標について、国の計画に沿って「男性職員の育児休暇取得率や「6歳以下の子どもを持つ男性の家事・育児の平均時間」を採用すべきと提案しました。また練馬区が実施しているサービスについては、固定的性別役割分担意識に基づいたものはその名称や説明の変更を求めました。特に「母子手帳」に関して「親子手帳」という名称を採用している自治体も多いので、見直しを求めました。さらに、現在の産前の「パパ・ママ教室」について沐浴の実習等にとどまらない内容の改善と、開催日の拡大、連続講座の開設を行うべきと指摘しました。

区からの回答

指標については今後検討する。パパ・ママ教室についても、アンケート等でのニーズ把握につとめるとの回答でした。こうした問題について、男性が正面から取り上げ、問題点を指摘したことは画期的とのコメントを、市民の方からいただきました。

4 大泉の町づくりについて（関越高架下）

地域の課題として、関越高架下の高齢者センター等の建設計画について、中止を訴えました。近隣住民は大規模工事の騒音等に悩まされ、計画に対する共感失われています。特に高齢者センターに関しては、大泉地域の住民の間で疑問の声が高まっています。安全性に対する説明も根拠が失われ、住民合意も整っていない。そんな状態のまま進められようとしている関越高架下活用計画の抜本的な見直しを求めました。

区からの回答

安全は担保されており、住民の合意も整っているとのことでした。これは現場の声を完全に無視したもので、この問題については、今後もしっかりと地域の方とともに声を挙げていきます。

9月9日、はじめての一般質問。

各項目の詳細はHP、またはブログ「世界で働いた練馬区議」でご覧いただけます。本会議の映像は練馬区ホームページで公開されています！
<http://gikai02.kaigiroku.jp/dvl-nerima/2.html>



今回の一般質問で、最も残念だったことは、区長に答弁を求めていたにも関わらず、本人が答弁に立たなかったこと。このことは議会全体と執行機関の信頼関係を大きく損なうものであり、市民の声ねりまは、会派として区に対して誠実な議会運営を求める申し入れを行いました。

対談 父親の子育て

岩瀬 「自分が当事者になって、父親が子育てをすることへの社会の反応に違和感を持つようになりました。」

『子育てと仕事の両立はどうするの?』と聞かれるのは私ではなく妻だし、イクメンという言葉はあっても、イクウイメンという言葉はない」

渡辺 「そつだね、たとえば『男の子育て』という言葉にも危うさがあった『女の子育て』とは言わない。社会的なことでは『子育てと仕事』を男性は基本的に両立しない、女性としてはあたりまえという空気がまだある」

岩瀬 「9月議会の一般質問でも育児休暇についてとりあげました」

渡辺 「育児、家庭との両立以前の問題として言えるのは、基礎知識がないこと。知識がないから女性にとつての育児の意義も伝わりにくいんだよね」

岩瀬 「会社で妊娠や出産の報告をすると『お父さん頑張っておむつ代を稼がないと』と言われる。留学先の力ナダでは夫が正社員、妻がパートでも交代で休みをとるのが当然だった」

渡辺 「そつ、本来はそこで働き方どうしよう、って話をしたいんだよね」

岩瀬 「妻には『どの予防接種を受けるか、どの薬をいつ使うかとか、子どもの人生の選択を一緒に背負って欲しい』と言われる。それで一緒に勉強したりする。2020年に向けて、国は男性の育児取得率と、家事育児をする時間の目標を示しています。自治体でも具体的な目標が必要だと思つていますが」

渡辺 「家事育児をどれだけしているかという総時間よりも、お母さんが8割でお父さんが2割だったらやっぱり見直そうとなるように、もう少し割合を考えるといいと思つ。あと子育てをするために家事を捨てる、または外注するという選択も当然あるから。育児休暇について言えば、出産予定日前後の1週間で休みをとって失敗する男性が多い」

岩瀬 「私もそこで失敗した笑」

渡辺 「そつ、その一週間で母親は入院中だから何をしていたかわからなくて庭の草むしりとか家庭菜園を始めたりね笑それじゃあ、やっぱりもつたいたいと思つ。あとは育児休暇というのは国の制度だということ知らない人も多くて有給を消化しちやったりする。こういう話を事前学級でしたいんだよね」



2011年に株式会社アイナロハを設立、「産後サポートまものわ」事業を開始。年間1,000人以上のご夫婦への父親学級講師を務める。ブログ「バースプランは産後まで。」著書に『産後が始まった!』(KADOKAWA)等

アイナロハ代表 渡辺大地さん

岩瀬 「練馬区でも既存の施設を使った産後ケアが試行的に来年から始まります。一般質問で取り上げた母子手帳のこともそつだし、正直に言えば、練馬区は遅れている事例が多い。その分、先進事例から学びながら進めていくことも出来るはずだと思つています」

渡辺 「どういう人を優先的にケアするか、これは大事な話。世田谷の産後ケアの評判はすごく良いけど第一子じゃないと入りにくい。どういう基準で進めるか、チェックは大切だね。行政からすると『第一子だから大変』と思つのかもしれないけれど、僕から見ると第二子のほうが大変。連続、ショート、デイの利用率リサーチをちゃんとやって、サービスマを見直して欲しい。待機児童問題での入所保留児童の割合もそうだけど早いもの勝ちにしてしまうと本当に必要な人へまわらないんだ。さつき、どの予防接種をうけるかという話が出たけれど、子どもは3歳までに予防接種を80回うける。父親はそれも知らない。その時に母子手帳を持っていかなきゃいけないことも、普段どこに母子手帳がしまつてあるかも知らない。岩瀬さん、次は母子手帳の勉強会やりましょう!」

岩瀬 「いいですね、やりましょう! 私が開催するだけでなく、行政でも取り入れられることをやっていきたい。さて、11月28日(土)と一緒にやるイベントの宣伝をしなければ (表面へ)

PHOTO BY PHOTO LA LUCE

11/28
13:30~16:00

パパ、ママで 考える・変える 父親の子そだて

西武池袋線 中村橋駅 徒歩2分
サンライフ練馬 参加費200円 ※キッズスペース有り

事前にご予約ください

1. レンズを通じた男の子育て(井上さゆり)
他、スマホで子どもの素敵な写真を撮るテクニックを指導
2. 行政って何ができるの?(岩瀬たけし)
待機児童解消や、パパママ教室など練馬の課題と今後
3. 子育てしやすい街ってどんな街?(渡辺大地)
行政の子育て支援と家庭をつなぐワークショップ

…裏面からつつく…
渡辺 「身近な政治家がどんなことをできるのか知りたいし、切り込みみたいと思います。そして、子育て世代の参加者の多様なリクエストを少しでも多く区政に届けてもらう機会にしたいと思います。11月28日、子育て中の方々、お子さん連れでどうぞ！ハッキリ言って難しい話は一切なく、子育て世代が言いたい放題言って政治家を困らせるという趣旨のものですから、手ぐすね引いてお越しくださいませー」

岩瀬 「なんだかプレッシャーですね(笑)。はい、皆さん何でもいので率直なご意見をお聞かせください！渡辺さん今日はありがとうございました」

いわせて未来! 練馬区政の、ここが変わりました!

＝決算質疑＝

議会では一般質問だけでなく、区の決算に関連した質疑、決算質疑が行われます。今回はその中で、**練馬区ウェブサイトの多言語化と、不登校の子どもへの支援**について取り上げました。

●練馬区ウェブサイトの多言語でのサービスについて。こちらは区内の方からご相談をいただいたことがきっかけで取り上げることができた問題。あまりの誤訳の多さ、わかりにくさに驚きました。ウェブサイトの中でも災害時の対応など命や生活の根幹に関わるものについては早急な対応を求めました。こちらは対応も早く、(1)翻訳の改善、(2)新たなウェブサイト作成を検討する、という回答を得ることができました。

●区が行っている不登校対策は「学校へ戻す」ことが前提となっています。もちろん、いじめの防止をはじめ学校環境を改善する取り組みを続けることも大切です。とはいえ、現実にフリースクールに救われている子ども達もいることを考えれば、区内や周辺のフリースクールについて実情や内容・課題を把握し、情報交換などの連携を行うことが必要であると訴えました。

水・木・金 7:00~8:00
大泉学園駅 街頭演説



IBUKI

市民の声ねりまニュース「いぶき」購読料1000円(年4回送料込)
〒178-0063 練馬区東大泉5-6-9 (03-5933-0108)

市民の声ねりまは…

一人ひとりの市民の思いをつなぎ、声を区政に届けます
めざすものは「ともに生きる ともにつくる」まちと政治
池尻成二と岩瀬たけし、二人の議員を先頭にがんばります!

メールマガジン発行中です。ご希望の方は下記アドレスまでご連絡ください!

〒練馬区大泉学園町1-30-3
Tel:03-4291-6378
Fax:03-4283-4596
lwaseteNerima@gmail.com



岩瀬たけし

